

現職教育計画

1 研究主題

友達とかかわり合い、共に高め合う児童の育成
—心と心をつなぐ言語活動の工夫—

2 研究主題設定の理由

(1) 今日の課題及び昨年度までの取組から

今日、自制心や規範意識の低下だけでなく、人間関係の形成が苦手なために問題行動を起こしてしまう児童が増えている。このような現状を受けて、友達との良好な人間関係を築くことができる児童を育成していくことは、学校教育においてもっとも重要な課題と言える。

本校では、平成22年度より昨年度までの3年間、「友達とかかわり合い、共に高め合う児童の育成—心と心をつなぐ言語活動の工夫—」を研究主題として、研究を進めてきた。各教科の実践研究において、友達とスムーズに意見交換ができるように話型を設定したり、お互いの考えを高め合う交流の在り方や教師の支援の在り方を追求したりしてきた。また、人権尊重の基盤に立った教育の推進として、授業の終末に「振り返りの時間」を設けることで、自己達成感を味わうとともにお互いのよさに気付くようにしてきた。これらの活動が定着し、児童一人ひとりが自分の考えを表現したり、相手の考えをしっかりと聞いて話し合ったりする力は伸びてきたといえる。そこで、本年度は、サブテーマの「心と心をつなぐ言語活動の工夫」に重点を置く。話し合いの質を高め、よりよい学び合いができるようにしていくことが重要だと考えている。また、なかまづくりの面では、なかま学習やふれあい活動を中心に据えてすべての教育活動を見直し、よりよいなかまづくりや人間関係を拓くための実践を行った結果、なかま学習の取組も充実し、ふれあい活動においても児童の成長が見られた。そこで、本年度も、児童一人ひとりのよさを認め広げていくことを目標に実践していきたい。

(2) 児童の実態から

本校の児童は明るく人なつっこくて元気な児童が多い。児童へのアンケートでは、ほとんどの児童が「学校生活が楽しい。」と答えており、学級でのなかまづくりはおおむね満足できる状態であるといえる。しかし、児童の日常生活を見ていると、自分の思いをはっきりと表現できなかつたり、乱暴な言葉を使ったりする場面がまだ見られる。また、本校の児童は、幼いころから母集団がほとんど変わらないために、人間関係が固定化される傾向が強く、友達を一方的な見方で見てしまう面も見受けられる。中には、自分の思いをうまく表現できないことが原因で、友人関係をこじらせてしまう児童もいる。

このような点から、他者の気持ちを考えることや一人ひとりの居場所を確保するという視点に立って教育活動を見直し、温かい言葉の交流を重視した実践を行ってきた。その結果、児童が互いのよさを認め、学級内での存在感を一人ひとりが持てるような状態に近づいている。さらに、お互いの人権を尊重した豊かなかかわりをめざしていくためには、日常的な言動において、児童自ら問題意識を持ち、問題解決に向かって行動を起こしていくことが求められる。このような実践的な人権感覚を育てていく基盤には、相手の気持ちになって真剣に話を聴いたり、自分の考えや気持ちを的確に表現したりする力が必要である。

3 研究主題について

(1) 「友達とかかわり合い、共に高め合う」とは、

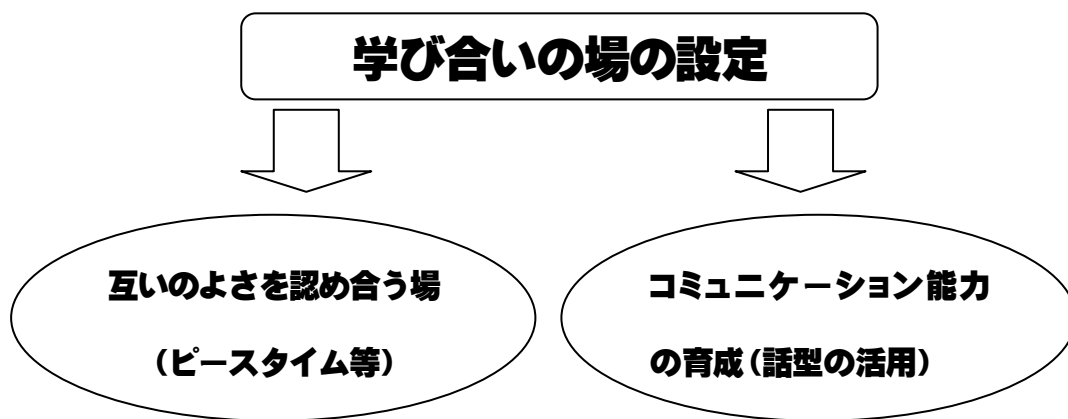
学習活動において、友達と意見を交換したり、話し合ったりする等、友達とかかわる場を重視し、多様な思いや考えに触れる機会をつくり、相手に自分の考えを分かりやすく説明したり、友達の考えと自分の考えを比べながら話を聞いたりすることを通して、自分の考えをまとめていく力が身に付いていくようにしたいと考える。お互いに切磋琢磨しながら共に高まっていく中で、友達のよさに気づき、友達とかかわる楽しさや適切なかかわり方を学んでいくことができる。友達との交流の場面をどのように設定するかで、児童の意欲の向上にもつながる。なかまと豊かにかかわるために、教師は、交流の場を工夫し、よりよいかかわり方についての支援や指導を積極的に行う必要がある。「どのような言葉でどう伝えると、自分の思いをはっきりと伝えることができるのか。相手の言葉をどのように聴くと、相手の思いを理解できるのか。」様々な場面でスキル学習も取り入れ、実践していきたい。児童一人一人が、互いに個のよさを認め合い、その中で自分のよさを発揮できる集団を育てていくことが、なかまと共によりよく生きることにつながる。本年度も、これらの実践の基盤となる児童一人ひとりの力を付けるための方法を追求していく。

(2) 「心と心をつなぐ言語活動」とは

友達と思いを共有したり、考えを理解し合ったりすることで、友達との人間関係ができ、よいなかまとなっていく。それが、学級、学年、異学年、さらに地域の人とのかかわりへと広がり、人間関係を拓く力を育成できるように考えると考える。その人間関係を築いていく基盤となるものは言語であり、温かい言葉での表現が特に重要となる。そこで、なかま学習（人権学習）・ふれあい活動・教科学習の中で、豊かな人間関係を築くことができるような言語活動を工夫したり、教育環境を整備したりしてきた。これらを積み重ねていくことで、児童相互の人間関係が深めていけるようになっていくと思われる。

今年度は特に、「つなぐ」ということに重点を置き、友達の考えと自分の考えを関連づけて考えられるような手立てを考えていきたい。話し合いの場が、ただ自分の考えを発表するだけになってしまわないよう、真の学び合いの場となるよう実践していく必要がある。そうすることで、自分ひとりではなく、友達と共に学び、共に高めあっているということを実感できると考えている。

そのためには、教師自身が児童への言葉のかけ方を考え、児童一人ひとりを大切に、児童の発言や言葉にできない思いに寄り添っていくことが大切である。



4 研究内容

(1) 人間関係を築く言語活動の工夫

- ① 友達の話と自分の体験をつなげて発言する場の設定（朝のスピーチタイム）
- ② 互いのよさを認め合う振り返りの場の設定（ピースタイム）
- ③ ふわふわ言葉を広げる。（あいさつ・称賛の言葉・励ましの言葉・共感の言葉等）
- ④ ふれあい活動の中での言語活動を工夫し、実践する。（進行の言葉・お礼の言葉・感想の発表等）
- ⑤ 話し合う力を育成する。（話型・聴き方・進行の仕方・意見のまとめ方等）
- ⑥ 家庭への啓発と連携を行う。（学校便り・学年便り・学級PTA等）

(2) 学力向上のための取組

- ① 家庭学習を推進する。（家庭学習の手引きの作成・推進等）
- ② 基礎学力向上のための実践を行う。（城山タイム・マイスタディの計画と実践等）
- ③ 学習意欲を高めるための学習規律や態度を育成する。
- ④ 家庭への啓発と連携を行う。（学校便り・学年便り・学級PTA等）
- ⑤ 授業改善・教師の指導力向上を行う。（プチ現教）

(3) 教育環境の整備

- ① 言葉を意識した校内掲示の企画と実践をする。
- ② ふわふわ言葉や話型の提示や掲示を推進する。
- ③ 称賛の場を企画するとともに運営の仕方を工夫する。（ピース賞の実施）
- ④ 集会の内容を見直し、計画と実践をする。
- ⑤ 教師のよりよい言葉のかけ方を考える。